

# 平成29年7月九州北部豪雨災害

## 朝倉市を筑紫地区4市で支援

平成29年7月九州北部豪雨災害で甚大な被害を受けた朝倉市へ、筑紫地区4市（筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市）合同で見舞金を贈呈しました。

8月25日（金）に朝倉市役所で行われた贈呈式では、藤田陽三筑紫野市長が目録を読み上げ、芦刈茂太宰府市長とともに筑紫地区4市を代表して森田俊介朝倉市長に手渡しました。



森田朝倉市長（左）に目録を手渡す藤田市長（中央）と芦刈太宰府市長（右）

今回の取り組みは、福岡県市長会としてのつながりから筑紫地区4市で連携して行ったものです。

被害に遭われた皆様に心からお見舞いを申し上げます。一刻も早く日常を取り戻せるよう、筑紫野市においても今後も支援を続けていきます。

- 金額 各市250万円の計1千万円
- 問い合わせ先 秘書広報課

## 筑紫野市歴史博物館

ふるさと館ちくしの情報

### 秋の企画展 「近代筑紫野のにぎわい」展

秋の企画展では、鉄道・生糸・観光の視点から近代の筑紫野がにぎわった様子を紹介します。

明治22年、九州の地に初めて鉄道が開業し、二日市や原田にも停車場がつくられました。九州内陸部まで線路はつながり、人々や貨物を運ぶ手段の要となりました。

また、大正3年には、長野県の山十製糸が二日市に工場を設立したことで、機械による製糸業が始まりました。主要な輸出品であった生糸の生産数は福岡県有数となったようです。

さらに、鉄道とあいまって、武蔵温泉（現二日市温泉）が観光開発に力を入れ、多くの温泉宿が軒を連ねました。これらのにぎわいは、現代までの街づくりの一端を担い、大きな影響を与えてきたといえるのではないのでしょうか。

### 企画展関連講座を開催します

秋の企画展の理解を深めるため、関連講座を開催します。今回は、当展示会の企画者による、題して「近代筑紫野のにぎわい―九州鉄道の開通と山十組二日市製糸場―」。

秋の企画展の主要テーマに沿って、筑紫野の地がどのようなにぎわいをみせ、街づくりが行われてきたのか紹介します。

- 日時 10月7日（土）13時30分～15時30分（13時受付開始）
- 講師 小鹿野亮（歴史博物館職員）
- 場所 歴史博物館2階研修室
- 定員 先着70人
- 申込開始 9月22日（金）9時から
- 申込方法 電話または博物館窓口にて
- 申し込み・問い合わせ先 歴史博物館 ☎（922）1911

- 会期 9月30日（土）～12月17日（日）※月曜日休館
- 場所 歴史博物館企画展示室
- 問い合わせ先 歴史博物館 ☎（922）1911